

令和6年度（令和7年5月11日）

子ども会体験活動作文



浜松市子ども会連合会

令和6年度浜松市子ども会連合会 子ども会体験活動作文

みんなをえがおにするチョコレート	砂山町子ども会 5年 原田くるみ
浜名湖遊びの思い出と未来への願い	中島市場子ども会 6年 大場奈津実
おいしいきな粉ができるまで	油一色子ども会 5年 河合 然
みそ作り体験、しょうゆ工場見学	竜南子ども会 3年 長谷川航大
楽しかった浜松まつり	卸本町子ども会 6年 村松 実央
町探検を通して	佐鳴台2・3丁目子ども会 4年 小林 勇陽
たのしかったキャンプ	中瀬7区子ども会 2年 山内 咲奈
3つの力を養う	永島子ども会 5年 酒井 英斗
楽しかったねつ気球	貴布祢4区子ども会 3年 江刺功至郎
そばうち体験	高塚南子ども会 5年 山田 幸喜
子ども会のアスレチック	三組町子ども会 6年 杉本 結香
はなし合ったアスレチックチャレンジ	安座佐鳴子ども会 6年 中野 紗花
たくさんとれたよ さつまいも	高畑子ども会 3年 三井 璃乃
夏休みのラジオ体そう	西美園大上子ども会 4年 藤森 弘翔
味そ作り	中嶋諏訪子ども会 3年 堀内 智貴

① みんなをえがおにするチョコレート

砂山町子ども会 5年 原田くるみ

このマラカスみたいな物が、本当にチョコレートになるの？カカオを初めて手に取った時、不思議に思いました。シャカシャカ音がしていて、チョコレートのにおいも全くしないし、早くこのなぞを解きたいと、わくわくした気持ちになりました。

マラカスの様な正体は、かんそうさせたカカオで、中にカカオ豆が入っていました。カカオ豆はそのままだと、何もおい wasn't でしたが、皮をむいてみると、ほんのりチョコレートのおいしそうな香りが鼻にぬけました。味見で一つぶ食べたけれど、とっても苦くて、わたしがふだん食べている、あまくてなめらかなおいしいチョコレートとは、比べ物にならないほど別物だったので、おどろきました。

チョコレート作りで一番むずかしかった事は、温度調節

でした。温度を調整して作ることで、きれいでおいしいチョコレートが出来上がるのだと聞いて、何度も何度も温度を計りながらまぜました。

完成したチョコレートを、一番にお父さんとお母さんに食べてもらいました。

「すごくおいしいよ。また、食べたいな。」
とえがおで言ってもらえて、心があたたかくうれしい気持ちになりました。一生けん命作ったチョコレートは、あまくておいしいだけでなく、食べた人をえがおに出来る幸せな食べ物だと思いました。そして、心をこめて作ると、自分も幸せな気持ちになれるのだと気づきました。

次は、家でチョコレート作りをしようと思います。トッピングを何にしようか、考え中です。



② 浜名湖遊びの思い出と未来への願い

中島市場子ども会 6年 大場奈津実

「浜名湖遊び体験会かあ、虫とか魚は苦手だし何だか怖そう・・・」子ども会のイベントで浜名湖遊び体験に行くと聞いた時、そんなことを思っていました。高速道路から浜名湖を見たことはあるけれど、近くまで行ったことはありません。私にとっては、初めての体験です。

当日は船に乗って、いかり瀬に向かいました。運転手さんが浜名湖を一周してくれて、途中、カキの養殖所の横を通りました。湖の中に垣根のような物がたくさん立っていて、まるで畑みたいだなと思いました。

いかり瀬に着くと、たくさん生き物が待っていました。特に面白かったのは、ヤドカリです。海岸で空っぽの貝がらを拾ったことあるけれど、そこから



足が生えていて、水の中を歩く姿はとてもかわいく思えました。怖いという気持ちはすっかりなくなっていました。砂でお城を作って遊びました。遊んでいるうちに満潮が近づき、海の水が増えて、お城はどんどん湖の中に沈んでいきました。地球の変化を直に体験して、何だかドキドキしました。

最初は怖いと思っていた浜名湖遊びでしたが、とても楽しくて、行って良かったと思いました。係員さんに教えてもらいましたが、浜名湖では「海のゆりかご」とも呼ばれるアマモという植物が減少しており、アマモが減ると、海の生き物に大きな影きようがあるそうです。私はこのきれいな浜名湖がなくなってしまうのは、いやだなと思いました。

浜名湖を守るために自分で何ができるでしょうか。まず、ゴミを拾う、洗剤をむだに使わないようにしたいです。それと身近な人にもっと浜名湖を知ってもらうため、

いっしょにたくさん浜名湖に出かけたいと思いました。

この体験を通じて、自然の大切さと私たちの責任を考え、浜名湖の美しさを守るために行動していきたいと思っています。



③ おいしいきな粉ができるまで

油一色子ども会 5年 河合 然

「この種が育つと枝豆になるのかな。」

子ども会の皆で種と苗植え体験をしたあの日から二カ月経った。そして今日は、いよいよ収穫体験の日だ。引っこ抜くと根に謎の粒々がついていた。農家さんによるとこれは根粒菌といって、マメ科の植物に必要な窒素を送り、その植物から栄養をもらっている。いわゆる、共生している菌らしい。こんなに面白い仕組みがあったなんて。抜いた枝豆をゆでて食べるといつもよりも甘みが引

き立っていて、自分で採ったから倍、美味しかった。

二週間後、畑に残しておいた枝豆を収穫し、莢から出すと中から大豆が出てきた。落としたいらない葉は、畑に置いておくと土の栄養になると、農家さんが教えてくれた。さらに大豆は、味噌や納豆などの発酵食品になったり、がん予防になったりすると学んだ。道理でよく料理に大豆が用いられているわけだ。

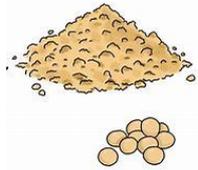
お雛子の練習の時、子ども会の皆でも大豆を取り出す作業を楽しんだ。中には黒ずんでいる物もあり選別が難しかった。その大豆は、天日干しをして乾かした。大豆を炒ると香ばしい香りが部屋中に広がった。

きな粉の会当日、その大豆を細かくし、すり鉢で擦った。思ったよりも硬くて大変だった。擦りたてのきな粉は、サラサラしていて良い香りがした。なめるとほんのり甘かった。代表で写真を使って種まきからきな粉までを発表した。

その後自宅で、生クリームといちごをトッピングした団子パフェにきな粉をかけて食べた。かけたきな粉が雪のようで、食べるのが惜しかった。

節分の時に邪鬼にぶつける豆は炒った大豆だから、外に投げても芽が出ないんだ。炒った時に気付いて面白かった。もし炒っていなかったら、庭から芽が出るのかな。一人で笑っていた。

このように食品となる植物は、工夫を加えることによって様々な変化をとげるといふ大きな可能性に気付いた。僕は、これからたくさん植物やその用途を知って、大きな可能性の世界をのぞいていきたい。



④ みそ作り体験、しょうゆ工場見学

竜南子ども会 3年 長谷川航大

車をおりると黒くて古い大きなたて物が見えた。「明治

屋醬油」と木のカンバンに書かれている。長い歴史を感じる。

お店の中に入ると、しょうゆの良い香りがした。昔の電話器やミシンなどがあって、タイムスリップしたみたいだ。その時、時計からボーンボーンと大きな音が鳴り、楽しみにしていたしょうゆ工場見学とみそ作り体験が始まった。

まずは、みそとしょうゆの材料について。

みそは、大豆・米こうじ・塩から、しょうゆは、大豆・塩・小麦からできている。同じような材料から全く違う物ができていて不思議だ。

次は、しょうゆ工場を見学する。五十年以上前から働き続けているきかいが、ガッシャンガッシャンと音を立てて動いている。暗いしょうゆだるの部屋に入ると、むわんとしたこうじのにおいがした。ぼくより大きくて深いたるの間を歩いていく。落ちたらどつしよつ。だけど、

友だちもいるから平気なふりをして歩いた。

今度はみそ作りだ。袋に入った大豆をもむ。むされていてほんのり温かいが、なかなか大豆がつぶれない。たいていたいて、袋を裏がえして、またたく。おでこに汗が出てきた。隣を見ると、友だちも汗をかいていて、お互い目を見合わせて笑った。つぶした大豆をボウルに移して米こうじを加えてまぜる。ねん土をこねるようにグーパーグーパー。塩を加えて、グーパーグーパー。団子を作ってタッパーにギュッギュッとつめていく。すきまがあるとカビができるので、上からも横からも確認する。表面を平らにするように指でなでる。上手にできた。最後に塩をふりかけ、ラップをかけて、おもしろを入れてふたをする。あとは冷蔵庫にいれて、九カ月待つ。



できあがったみそで何を作ろうかな。大好きなパクチ

ヨイとどうぶ、油あげのおみそしるにしよう。おかあさん、よろこんでくれるかな？おいしくなあれ。おいしくなあれ。

⑤ 楽しかった浜松まつり

卸本町子ども会 6年 村松 実央

凧の色は何色にしようか、子ども会の六年生で話し合うところから、凧作りが始まりました。今までに卸本町で作ったことがない色、とにかく凧あげ会場で一番目立つ色にしたいと思い、白地にピンク色の文字に決めました。

四月からはラップパ隊の練習も始まって、上手にふけるようになりたいと思って、一生けん命練習しました。子ども凧あげの練習の日、凧あげ会の方たちと子ども会で、歩いて砂浜まで行き、凧あげの練習をしました。その後、子ども会で作った新品の凧に、みんなで手形をおしまし

た。手にインクをつけてもらって、凧に自分の手形が入ると、さらに五月五日の子ども凧あげが楽しみになりました。

浜松まつりが始まってラッパをふくと、ラッパの先生から

「本当に上手にふけるようになったね。今年の子どもラッパ隊は上手だね。」

と言ってもらえて、がんばって練習して良かったと思いました。五日の凧あげの日、自分たちの手形がおされた凧が高くあがるように、みんなで力をあわせて、がんばって凧をひきました。空高くまであがったときは、とてもうれしかったです。

子ども会で作った凧のおかげで、子ども会の小学生も、卒業した中学生、高校生も、地域の人も、みんなで手形をおして、糸目をつけて、楽しく凧あげをすることができました。また来年も、今年作ったこの凧を浜松ま

つりであげたいです。小学生は少なくなってきたけれど、私たちのまちのまつりをこれからもり上げていきたいです。



⑥ 町探検を通して

佐鳴台二、三丁目子ども会4年 小林ゆうひ

ぼくは町探検をしてみても、いつも何気なく通っている佐鳴台の町にも、「たくさん危険なところがあったんだな」と感じました。

今回は、自分が毎日歩く通学路の近くを少ししか歩くことができず見れなかったけれど、立ち止まってよく考えてみるときけんなどところだと分かったり、前から危険だと思っていたところもありましたが、たくさんの人と見ることで、今までよりも深ぼりすることができたと思いました。車の量が多い、スピードが出るだけでは

く、住宅街のへいにひびが入っていたり、信号のない交差点のところカーブして見通しが悪かったりと見つめることができませんでした。歩道でもひびが入って道が盛り上がってしまったところがあり、普段は気にしてなかったことにも改めて気付くことができました。

グループに分かれてそれぞれの見つけた危ないところを発表して話し合いました。順番に危ないところを伝えていくと、同じことを思った友達がいたり、自分が気付かないところを教えてくれたりしたこともありました。子ども達の意見に大人の意見も加わってたくさん危険なところを見つけることができ、マップができ上がりました。シールがたくさん付いているのを見て、こんなにたくさんあるんだなと感じました。



今日、自分の目でたしかめてみて、毎日歩いていた道だけで、危険があることが分かったので、自分自身も気を付けていきたいと思います。そして佐鳴台の街が安全な場所になると良いと思います

⑦ たのしかったキャンプ

中瀬七区子ども会 2年 山内 咲奈

お母さんが、「夏休みの思い出をつくりについておいで。」と言っていていくことになったので、さいしょは、「いきたくないなあ。」と思いました。けどみんなが「大じょうぶだよ。」と言ってくれたり、「がんばろうね。」といういろいろと声があったから、「いきたくないな。」から「たのしいな。」にかわりました。

一ばんたのしかったのは、Oレビンゴです。どうしてかというところあるいてチェックポイントのところまで行って、そこでゲームをしますが、はんのみんなといっしょ

にたくさんあるいてゲームをしたのが、うきうきしてたのしかったからです。

二ばんめは、ナイトウォークがたのしかったです。〇「ピンゴとはちがって、くらいよるの中をかい中でんとうだけであるので、「どうぶつが出ないかな。」とこわかったです。でも、みんなが



「だいじょうぶ、ついでいるよ。」

となぐさめてくれました。だから「がんばろう。」と思って、やっとゴールにつきました。

よるねるときに、おねえさんがとなりでねてくれました。お母さんがいなくてしんぱいだったけど、あんしんしてねれました。

ほかに、がんばりました。みんなががんばり、ポイントがばんだ多かったのうれしかったです。

いく前はトキトキしていました。でもいってみたらと

てもたのしかったので、「また、いきたい。」とお母さんにいったら、「やっぱりね。そついうと思ったよ。」といわれました。なんでわかったの！と思いました。

⑧ 3つの力を養う

永島子ども会 5年 酒井 英斗

ぼくは、子ども会のイベントで、寺子屋に参加しました。寺子屋は、永島にある明心寺で、30年以上前から続くイベントです。今年は、32回目で、コロナ前は泊まっていたそうです。寺子屋では、3つの力を養います。

最初は、お経を読みました。むずかしい漢字ばかりだったけれど、意味がわかるどころもありました。

次に法話で、住職さんがうさぎとかめなど、ためになる話をしてくれました。法話では、聞く力を養います。

次に、ぎぜんをやりました。ぎぜんは、あぐらをくんでしせいを正し、目をつぶってじっとしています。ふだ

んじっとしていることがないので、むずむずしました。

住職さんの気配を感じました。ざぜんでは、忍耐力を養います。忍耐力がないとざぜんはできないと思いました。住職さんがぼうをもつてまわってきます。動くたたかれていますので、ドキドキしながらやりました。

次に、写経をやりました。字をなぞり、集中力を養います。ぼくは最初に見たとき、本当にこんな長い文字を書けるかなと不安になりました。予想どおり、20分くらい時間がかかりましたが、書けました。集中して書けたと思います。

最後にビンゴでもりあげました。6年生がもりあげ役で永島の人達と仲良くできました。来年は6年生になるので、思いつきりもりあげたいです。

今回の寺子屋では、小学校の人達はもちろん、ちいきの大人とも交流でき、きちょうな体験になりました。寺子屋は、永島の伝統的な行事なので、大人になっても、

伝統を伝えて残していきたいです。

⑨ 楽しかったねつ気球

きぶね四区子ども会 3年 江刺功至郎

今年の夏休みに、子ども会でねつ気球に乗るイベントがありました。ねつ気球は本で見たことがあるけれど、本物を見たり乗ったりしたことはなかったので、乗れると聞いて、とても楽しそうだなと思いました。

ねつ気球に乗る当日は、朝五時二十分ぐらいにおきて、朝六時ぐらいに、学校に自転車で行きました。

学校にとう着した時は、ねつ気球はまだふくらんでいませんでした。友だちとふくらむ様子を待っていたら、とても大きい音がしてびっくりしました。その音は、熱気球をふくらますためのガスバーナーの音でした。自分



の想ぞうより速くふくらんで、いきおいもすごくて、とてもびっくりしました。ふくらんだ様子は、思ったより大きかったです。二十メートルぐらいの大きさがあると聞いて、おどろきました。

自分で乗る番になった時、ぼうけんに出かけるような、わくわくした気分になりました。だんだんうかんできて高く上がった時には、かん声が上がりました。一番高いところになったら、アクトタワーやアピタの屋上まで見えて、すごくいい景色でした。十五から二十メートルぐらいの高さまで上がっているとパイロットさんに聞いて、びっくりしました。

上り下りのためにガスバーナーを発動させた時は、せ中や体がとてもあつくなくて、音もすごかったです。ガスバーナーの強さは、三秒でお風呂が出来上がるぐらいのい力と聞いて、おどろきました。あつという間におりる時間になってしまって、もう一度乗りたいなと思いま

した。



はじめてのねつ気球に乗れて、心このこる夏休みになりました。とても良い体けんができました。また、ねつ気球に乗る時は、もう少し長い時間で、高い所から景色を見てみたいです。

⑩ そばうち体験

高塚町南子ども会 3年 山田 幸喜

八月五日の月曜日、可美協働センターのそばうち体験教室に参加しました。今回が三回目のそばうち体験教室だったので、やり方や道具や材料はわかっていたけれど、おいしいそばをうちたいなと思って楽しみにしていました。

最初に、先生の大石さんのお手本を見ました。そば粉に水を入れた後にまぜる時、指がベチョベチョにならないように、水の上にそば粉をかけてからまぜるとよいというアドバイスがありました。今までのそばうち教室では、ぼくは指がベチョベチョになってしまっていたので、このアドバイスを生かそうと思いました。

自分の席で、そばのきじを作る時、そばをうつはちの周りについた粉もきれいに取るように気を付けました。お手伝いの人の力も借りて、いい感じのそばをうつ事ができました。

むずかしかったのは、きじをのばすところでした。のばす時に、きじをのばしすぎてしまつて、きじがやぶれてしまいました。きれいなそばを作りたいと思つていたので、すこし残念だったけれど、味に変わりはないので、まあ、よしにしました。

そばを切つた時は、そばの太さがバラバラになってしまいました。そばを切る包丁は、大きくて特別な形をしているので、毎回しんちょうにあつかっています。

その日の夕ごはんに、作つたそばをざるそばにして、家族で食べました。自分で作るそばは、いつももちもちしていてもおいしいです。父も母も、そばの香りがいいと喜んでいました。次のそばうち教室では、もう少し長いそばができるようにがんばりたいです。



⑪ 子ども会のアスレチック

三組町子ども会 6年 杉本 結香

今回のアスレチックへ行く子ども会での活動では、同じ地域で暮らしているながら、普段一緒に話したり、行動したりすることもない友だちと交流できて、とても素敵

な機会でした。

暑い中でしたが、アスレチックのスタートからゴールを目指して一緒に進むことで、地域の友だちとの関係も深まったように感じました。

アスレチックに行くまでも、徒歩とバスと電車とタクシーを乗りついで行くのは、とても良い思い出になりました。普段あまり話したことのない友だちとも、このような機会のおかげで、ゆっくり話すこともできました。またまた、友だちの意外な一面をみることで、今までよりも親しくなった気がしました。

私はこの地域で生まれ育って、十二年が経ちますが、これまでの友だちは、通っていた幼稚園や、通学する学校のクラスの人たちが中心でしたが、今回のアスレチックのおかげで、地域で暮らす友だちの輪も広がったようにも感じられました。また、いつも学校では先生が中心となって行動することが多いのが、今回のように、地域

のお母さんたちがまとめてくれて、小学校一年生から六年生までの子どもたちが助け合い、ゆずり合いながら行動したことが、とても新せんでした。それから、移動先で食べた昼食は格別で、心に残りました。

またこれからも、このような機会が続いたらうれしいと思います。

最後に、今回このような機会を作ってくれた、地域の方々やサポートしていただいたみなさまに感謝したいと思います。ありがとうございました。



⑫ はなし合ったアスレチックチャレンジ

安座佐鳴子ども会 6年 中野 紗花

浜北森林公園へ子ども会のみんなでアスレチックをし

に行きました。四十個の遊具に一年生から六年生でチャレンジしました。

思い出深い遊具が三つあります。

一つ目は、「天竜川くんだり」というと長距離スライダーです。丸太の木一本のブランコみたいなイスに座って出発です。乗る時にイスがゆれて乗りにくいので、友達にゆれないようにイスのロープを支えてもらいました。森の中を勢いよく滑り降りるので、風がブワツとふいて楽しかったです。友達がやる時は、私がロープを支えました。みんなも気持ちよさそうに滑走していました。

二つ目は、吊り輪渡りです。吊り輪がグラグラ揺れるのでなかなか進めず、ロープを持った手がとても痛くなりました。やめたいと思ったけれど、友達があきらめずがんばってチャレンジしているので、私もがんばろうと気持ちになりチャレンジしました。低学年の子もがんばっているいろいろな遊具にチャレンジしているので、

「がんばって」とはげましながら進みました。



かったです。

家族と行くと、父や母に助けってもらっていることが多いです。今回、高学年は母達は全部見守りでした。友達みんなで協力し合いはげまし合い、楽しみながらアスレチック全遊具チャレンジすることができました。子ども達でがんばってやれた達成感は大きかったです。

これからも行事やイベント参加したら、みんなでコミ

三つめは、丸太とロープで作られたジャングルジムみたいな遊具です。ロープで作られた長いトンネルをくぐりながら登ります。とても高さがある遊具で登るのが大変でした。友達とがんばって頂上まで登りました。頂上は、森林公園の景色がとてもきれいで達成感があふれて気持ちが良

ユニケーションをとって協力し合いたいです。

⑬ **たくさんとれたよ さつまいも**

高畑子ども会 4年 三井 りの

十月二十六日土曜日、地いきの農家さんの畑でさつまいもほりをしました。

六月につる植えをしました。つるは、とても細かったので、やさしくていねいに植えて土をかぶせました。

七月とは八月は、草取りをしました。どちらの日も草がたくさん生えていたのでがんばってたくさん取りました。あせをたくさんかいたので、水とугが、あつというまに空になりましたが、終わった後に、農家さんのおじさんとおばさんが畑でとれたスイカをこちそうしてくれました。わたしは、とてもものがかわいていたので、うれしかったです。スイカは、今年初めて食べました。とてもあまくてみずみずしかったです。

十月になり、そろそろさつまいもがとれる時期になり、さつまいもほりの日までとても待ち遠しかったです。

さつまいもほり当日、天気が心配でしたが雨がふらなかったもので、良かったです。この日は、

お父さんやお母さんもお手伝いに来て、たくさんの人が集まり、さつまいもをほりました。さつまいもは、土を

たくさんほらないと出てこないもので、

大人の人や友達と協力してほりました。力もたくさん使ったので、手が痛

くなりました。土の中には、よう虫や虫がたくさんいました。

とれたさつまいもは、色々な大きさや形や種類があり、おもしろかったです。ビニールぶくろいっぱいのさつまいもがとれて、家に帰ったら、家族のみんながとてもびっくりして、よろこんでくれました。その日は、わたし



とお母さんでさつまいもについたドロをあらひ、一緒に
大学いもを作りました。とてもあまく、ほくほくしてお
いしかったです。さつまいもほりができてうれしかった
です。

⑭ 夏休みのラジオ体そつ

西美その大上子ども会 4年 藤森 弘翔

ぼくの住んでいる地区の子ども会では、夏休みの始め
と最後に、公民館でラジオ体そつをします。朝六時半に
集まって、みんなで輪になってラジオ体そつをします。
でも、夏休みの最後のラジオ体そつは、台風でできませ
んでした。

ラジオ体そつは早起きがいやだけど、夏休みで会えな
い友達とも会えるので楽しいです。ラジオ体そつが終わ
ったあと、友達と話したり、遊ぶ約束ができたりします。
今までぼくは、ラジオ体そつをしたことがあまりなか

ったので、音楽をきいてもやり方が分かりませんでした。
だから、周りの人がやっているのを見ながらやりました。
ラジオ体そつはかんたんなのに、ちゃんとやると思った
よりつかれます。

今年の夏休みは、公民館でみんなでやったり、公民館
でのラジオ体そつがない日は、家
でお母さんとやったりしました。

お母さんは、

「ラジオ体そつをやると、かたこ

りが楽になっていいね。」

と言っていました。

ぼくは少食なので、いつもはおなかがすいていなくて、
朝ごはんがあまり食べられません。でも早起きしてラジオ
体そつをした日は、いつもより朝ごはんが食べれます。

ラジオ体そつは体も動かせるし、ごはんも食べれるよう
になるので、健康にいいと思います。



夏休みが終わっても、家でときどきはラジオ体操そうを
やりたいと思います。あと、来年の夏休みの子ども会の
ラジオ体操そうにも参加したいです。

⑮ 味そ作り

中嶋すわ子ども会 3年 ほりうちともぎ

ぼくは今日、子ども会の行事で、味そ作りをしました。

味そ作りを教えてくださいましたのは、かとうしょう油のとら
岩さんです。

作り方は、まず始めに、米こうじとしおをボウルの中
でよくまぜ合わせます。そしたら、コーヒーみたいなに
おいがしました。

次に、ボウルにむした温かい大豆を入れて、マッシャ
ーで大豆のつぶがなくなるまでおしつぶします。さいし
よはつぶつぶだったのが、カいっぱいつぶしたら、ネチ
ヨネチヨになりました。すると、だんだんあまいにおい

になっていきました。

その次に、つぶした大豆にまぜ合わせた米こうじとし
をを少しずつくわえて、手でまぜ合わせます。米こうじ
としおが一か所にかたまらないように、下からすくって
ひっくり返すようにまぜます。五十回くらいに分けて、
全部をまぜ合わせました。さいしよはネチヨネチヨだっ
たのが、まぜていくとだんだんとかたくなっていったの
で、びっくりしました。

さい後に、タッパーにうつします。空気が入るとカビ
が生えてしまうので、空気が入らないようにタッパーの
四すみからつめていきます。だんごみたいに丸めて、の
こりを全部つめたら、表面を平らにして、しおをまぶし
ます。しおをまぶすとカビが生えにくくなるそうです。
さらに、空気が入らないようにラップをしてかんせい
です。

味そ作りはじめてやったけど、大豆をつぶすとき、

豆がなかなかつぶれないし、カモほしいから大へんでした。でも、なかなかできない体けんができたので、楽しかったです。

味そは六カ月い上じゆくせいさせてから食べられるようになるので、六カ月たったら、お母さんといっしょにとんじるを作って食べるのが楽しみです。



募集

子ども会体験作文の募集中です。

〒431-0211

浜松市中央区舞阪町舞阪 2668-349

舞阪保健センター内

浜松市子ども会連合会事務局

TEL&fax 053-596-2878